

【自主調査】

Z世代のマンガの選び方は「失敗を避ける傾向」がある？

～株式会社シタシオンジャパンが「Z世代のマンガ選びに関する調査」を実施～

調査背景

「コスパ・タイパ」を重視するといわれているZ世代。それはどんな分野においても同じなのだろうか？

我々は、マンガという比較的パーソナルな趣味の選び方を題材に、Z世代が失敗やハズレを回避する傾向の有無や、その避け方にはパターンがあるのか？ということを明らかにすべく、実態について定性調査を実施した。

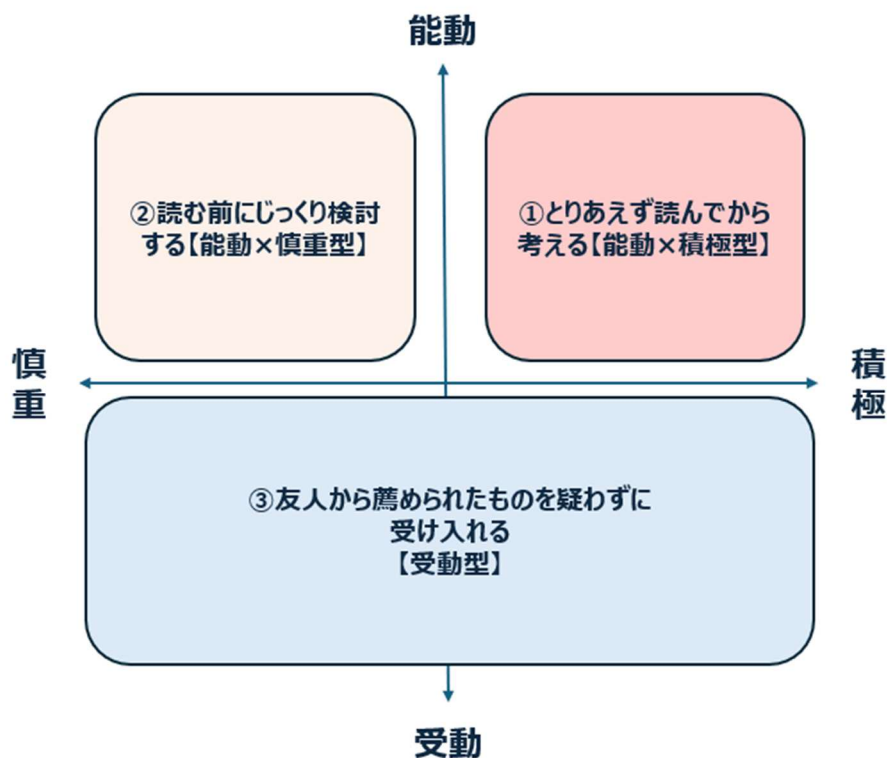
調査結果

■Z世代のマンガの選び方 3 分類

今回の調査対象者を、行動意識（横軸）とマンガ選択検討時の主体性（縦軸）にて整理したところ、下記の3タイプに分類されました。

- ① とりあえず読んでから考える【能動×積極型】
- ② 読む前にじっくり検討する【能動×慎重型】
- ③ 友人から薦められたものを疑わずに受け入れる【受動型】

※定量調査ではないため、それぞれのボリューム感は別途検証が必要



■①とりあえず読んでから考える【能動×積極型】

<特徴>

このタイプは気になったマンガは特に下調べなどせず、一度読んでみて、面白かったら読み続けるし、面白くなかったら読むのをやめる。取捨選択が多いため、離脱しやすい（長めの試し読みをしている状態に近い）。読む前にあらすじやレビューを調べるより、一度読んでみて面白くなかった場合、作品を早々に離脱することによって失敗を避けている。

<新しいマンガを読んでもらうなら・・・>

試し読み感覚で気軽に作品に触れられるような導線づくり（例：コミックスの巻数が若いものほど、価格を安く設定することで、読者が気軽に手に取り、作品を読み始めるきっかけ作りなど）

■②読む前にじっくり検討する【能動×慎重型】

<特徴>

このタイプはマンガを読む前に作品詳細を読んだり、（複数のサイトの）レビューを確認し、自分の嗜好性と合っているか確認し読みたい作品を決める。また、アニメ/実写化された映画を事前に見ていて気になってマンガを読み始めるケースもある。作品詳細やレビューを見ている段階でほぼほぼ気になるものと気にならないものの精査は終わっており、そこから試し読みなどをするが試し読みで離脱することはほとんどない。自分が時間をかけて意思決定しているので外さないだろうという思いが強く、一度読み始めてからの離脱も少ない。このタイプは、始める前に調べることによって失敗への予防線を張っている。

<新しいマンガを読んでもらうなら・・・>

意思決定しやすくなるよう質の高い情報と多様な視点からのレビューの提供（例：詳細な作品情報の充実、読者の声を可視化するレビューコンテンツの充実など）

■③友人から薦められたものを疑わずに受け入れる【受動型】

<特徴>

このタイプは自分から主体的に読みたいと思うマンガを探しだすといった行動はとらず、友人がおすすめする作品を調べたりせずとりあえず読む。友人の評価を信じ切っており、いずれ自分が好むタイミングが来るだろうと思い読み続けたりすることで読み始めてからの離脱はほとんどない。このタイプは、友人から薦められるマンガは外れはないという信頼感で失敗を避けている。

<新しいマンガを読んでもらうなら・・・>

友人関係の中にマンガが入り込むきっかけを作り、口コミが自然発生するような仕掛け（SNSでのシェアキャンペーンの実施、紹介したマンガを友人が読んだ際にインセンティブがもらえる仕組みづくりなど）

このようにマンガの選定基準には相違が見られるものの、共通して失敗を回避しようとする意識が強く作用している。タイプの違いはリスクに対する事前対策（予防線）のアプローチの違いなのかもしれない。このことはZ世代の特徴であり、マンガに限らずは他のカテゴリにも当てはまる部分がありそうだ。

株式会社シタシオンジャパンでは、上記のような求職者の分析から、各種転職サービス・プロダクトに関する調査まで、多様なラインナップで調査を実施しています。新規のご相談は <cj-info@citation.co.jp> までお問合せください。

調査概要

「マンガに関する調査」

調査日：2025年2月13日

調査方法：フォーカス・グループ・インタビュー

対象者条件：一都三県の20代男女。普段からマンガを読んでいる

調査業・広告代理業・マーケティング業に従事していない

サンプルサイズ：2グループ（5名+3名の計8名）